

出会いのワゴン (後期)

今月の後期生の出会いのワゴンは、『冬』がテーマです。

『白銀ジャック』 東野 圭吾

1年前、客が亡くなるという痛ましい事故があったスキー場に「グレレンデに爆弾を仕掛けた」という脅迫メールが届く。パトロール隊員による勇敢な行動と、その先に衝撃の真実が待っているミステリー作品。



『定年「ジジ」』 重松 清

定年を迎え退職した山崎さんが何も無い退屈なニュータウンでの定年仲間や家族との交流からこれまで、また人生における「冬」である最後の人生を考える。私達からしたら程遠い世代のお話。

『クリスマス・キャロル』 テイクンズ

強欲で嫌われ者のスクルージは、クリスマス・イブの夜、「スクルージ」を改心させるために現れた、4人の幽霊と出会う。

果たしてスクルージは、改心するのか・・・映画化や舞台化もされたこの作品を是非借りて読んでみてはいかがでしょう。

『冬眠の謎を解く』 近藤 宣昭

体温を下げて冬をやり過ごす動物の奇妙な習性、冬眠。その仕組みと、人間にも備わっているという「冬眠能力」とは。生命の奥深さを感じてみよう。

(四年)



気持ちを共有するには...

皆さんは好きな作品や気に入った曲に出会ったとき、詳しく感想を表現できますか？多くの人が「すごい」「ヤバイ」「エモい」など、三文字で終わらせてしまっていることでしょうか。これらの言葉は大変便利で、特に「ヤバイ」は良いとき、悪いとき、どちらでも使える表現です。しかし、三文字だけでは物足りないとは思いませんか？この感動を誰かと共有したいのに「語彙力が足りなくて何て言ってもいいかわからない...」と思ったことはありませんか？

そういうときのためにも、本を読むことは大切だと思います。本を読むと素敵な表現に出会えるはずです。この例え、いいな、とか、こういう心情の表現があるのか、と勉強になります。読書をするということは、他人の感性に触れるということ。ぜひ、普段読んでいる小説をそういう観点から読んでみませんか。しかしながら、やはり語彙力を鍛えるという点では、詩集を読むというのが一番ではないでしょうか。西校の図書館には分厚いものから文庫本サイズのものまで、教科書に掲載される著名な方々の詩集が置いてあります。詩を読むと日常のちょっとしたことにも気が付いて心が動かされるようになるかもしれません。そうになったら人生がずっと楽しくなると思いませんか？詩集はちょっと難しそう...と思う方はお気に入りの曲を改めて歌詞だけで読んでみてはいかがですか。歌詞は私たちに最も身近な詩です。ぜひ、たくさん本を読んで表現の幅を広げてください。豊かな表現を身につけて、好きなものを、より深く楽しみましょう！

(五年)

新刊紹介

今年も伊予銀行社会福祉基金様よりの寄贈していただきました。

『エンド・オブ・ライフ』 佐々 涼子
『さよならも言えないうちに』 川口 俊和
天久鷹央の事件カルテシリーズ 知念未希人
『スフィアの死天使』

『幻影の手術室』 天久 鷹央の事件カルテシリーズ
『甦る殺人者』
『火焰の凶器』
『魔弾の射手』
『神話の密室』
『久遠の鑑』
『無理ゲー社会』 橋 玲



『広い宇宙に地球人しか見当たらない75の理由』
『透明な螺旋』 東野 圭吾

『下流の夏』 林 真理子
『小説8050』 林 真理子

『はぐりぱくられし』 木皿 泉
『大正浪漫 YAOASOB』 大正浪漫原作小説

『16歳のデモクラシー』 佐藤 優
『悪』の進化論』 佐藤 優

『L-STEN 知性豊かで想像力がある人になれる』
『流れゆくまへに』 渡 哲也

『岸恵子自伝』 岸 恵子
『火星に住むつもりです』 村木 風海

『世界一しあわせなフィンランド人は、幸福を追い求めない』 フランク・マルテラ

『日本語で「らめっ」』 モハメド・オマル・アフディン
『大西泰斗のそれわ英語ぢやないだらぶ』

(五年)

出会いのワゴン (前期)

今回のテーマは、「犬」です。11月だから「ワンワン」って発想です。犬に関する本を紹介します。

『名犬のりれき書あの犬たちはすこかった!』

福田 博道

この本には、たくさん犬の「りれき書」が書かれています。思わず微笑んでしまうものや、涙が止まらない感動ものまで!意外と知られていない、すごい犬たちのりれき書が、たくさんありますよ!

『犬が来る病院』

大塚 敦子

白血病、ダウン症といった難病と闘う4人の子供たちは毎日苦しい生活を送っています。子供たちは病院にやってきました犬と一緒に何とか生きようと頑張っています。そんな4人の子供たちの姿をぜひ見てみてください!

『少年と犬』

馳 星周

この本は、雑種の「多聞」という犬が主人公です。この犬は、東日本大震災で被災し飼い主を失い、ただひたすら西へ西へと旅をします。一体多聞は何を求めて旅をしているのでしょうか?不思議な犬と様々な人達が繰り広げる、物語です。ぜひ読んでみてください!

『Bani Baniの家族』 石黒謙吾

主人公のバニはオーストラリアからやって来たジャックラッセルテリア種の好奇心旺盛な女の子。そんな彼女の日本での生活が写真とともに綴られています。(一年)



読書会報告

10月28日(木)、図書館にて第二回読書会を開催しました。本校は第26回日本絵本賞実践校に選ばれました。それらの絵本を利用して『絵本POPをつくろう!』と題して、参加者とPOPを制作しました。まず、POPを書きたい絵本を選んで、絵本を読んで作業をしました。短い時間でしたが、それぞれが絵本の魅力を上手に表現していました。使用した絵本は次の通りです。

☆ 公益社団法人全国学校図書館協議会より第26回日本絵本賞最終候補作品より6冊寄贈

『ごもたちはまってる』 荒井良一

『このかみななに?トイレットペーパーのはなし』

谷内つねお さく

『ぼくがふえをふいたら』 阿部海太

『虫ガールほんとうにあったおはなし』

ソフィア・スペンサー(虫ガール)ノ

マーガレット・マクナマラ 文

『ねえさんの青いヒジヤブ』

イフティハシ・ムハンマド&S・Kアリ 文

『子ども本の世界を変えた ニューハリーの物語』

ミシエル・マーケル 文

最終候補作品より図書委員選書購入

『ねこはすっぱり』 石津ちひろ 文

『いし』 中川ひろたか 文

『キス・スキ』 越野民雄 文

『しあわせなときの地図』 フラン・ヌニョ 文

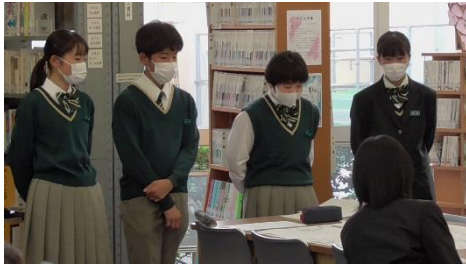
『プラスチックのうみ』 ミシエル・ロード 文

『あの湖のあの家におきたこと』

トーマス・ハンディング 文

〈参加者の感想〉

- ・絵本がかわいかった。
- ・自分の思う絵本の世界を、絵で表すのは難しかったが、楽しかった。
- ・誰かに紹介する気持ちで描けた。
- ・久しぶりに絵本にふれることができ楽しめた。



〈担当学年より〉

昨年度に引き続き、今回も絵本POPを制作することにしました。読書会は毎回、参加者が少なく、不安だったので、多数の参加者とともに充実した活動ができました。参加してくださった皆さん、ありがとうございました。

次回の第三回読書会は三学期に予定しています。次回も多数の参加者をお待ちしています。



(三年)



編集後記

「普通」という言葉がある。そもそも普通とは、「ひろく一般的であること」や、「どこにでも見受けられ、他と変わらないこと」である。(広辞苑第七版)より

しかし、私は、人々がこの普通という概念に囚われすぎていないように感じる。学生は趣味より勉強を優先しなければならぬ。安定した会社や職業を目指すのが普通。そして、普通でないものを認められないという考え方が存在している。確かに、人々と調和することも大事だ。だからといって、普通ではないものを否定してはならないと思う。なぜなら、調和とは「うまくつり合い、全体が整っていること」であって、「うまくつり合わせ、全体を整えること」ではないからだ。「普通」でないことも認め合う寛容さが大事だと思う。

私たちは全ての違いを認めることは難しいかもしれない。だが、私たちの意識次第で、否定せず受け止めることはできるのではないだろうか。そうすることにより、全ての人が生きやすい社会に一歩近づけることができると私は信じている。



(委員長)

